

高齢者の住まい支援に 養護老人ホームの空床活用

千葉県柏市の養護老人ホーム「ひかり隣保館」(社会福祉法人千葉厚生事業団)は2021年度から、空床を活用して住まいの問題を抱える高齢者を短期の契約入所を受け入れ、次の住まいや安定した生活につなげる取り組みを始めた。「措置控え」がある中、養護老人ホームの新たな活用策として注目される。(榎戸新)

ひかり隣保館(千葉)

独居高齢世帯や高齢夫婦、死などを恐れて大家が入居のみ世帯が増える中、孤独を制限するケースが発生し



入所者の相談に応じる濱野大祐・主任生活相談員(右)

ており、厚生労働省は高齢者の住まいの確保や生活支援に向けた取り組みを進めている。市の現状では、資産があるため養護老人ホームの措置入所の対象外だが、虐待などを受けて支援が必要な高齢者がいることも分かった。

同館ではこうした高齢者を支えようと、定員の20%まで可能な契約入所を活用することにした。入所中に生活相談員が中心となっ

これまで受け入れた人は、コロナを機に同居を始めた家族から虐待を受けて片目を失明した70代女性や、同居の子どもの死亡後、床が抜けた家に住んでいた認知症のある80代男性ら7人。いずれも持ち家などがあるため措置入所できない人だ。

佐藤高市施設長は「市内の65歳以上の1人暮らしは約2万人。その7割は持ち家や団地に住んでいると想定され、問題を抱えているが、支援が届かず孤立した高齢者は多いはずとみる。養護老人ホームとして措置入所が大原則だが、市内唯一の養護老人ホームにも

かわらず21年度の措置は1件のみ。そうした状況の中、社会福祉法人として地域の高齢者の支援ニーズに応えていく。

渡部昭理事長は「もともと養護老人ホームは家のない人たちも支えてきた。今改めてその機能の強化が求められる」と話し、今後、取り組みを深化させていく。

黒部市社協 送迎バス 地域の

富山県の黒部市社会福祉協議会は5月から福祉分館から、市内の社会福祉法人が送迎バスを共有する実証実験を開始した。福祉人材難が続く中、移動手段を最適化することで、法人の負担軽減につながるのを狙っている。実証実験は、黒部市社協とSMA(社会福祉協議会)と協定を結ぶ。ふくし

就職と

法人



小児科医 十河 剛の 乳幼児の保健 <65>



子供たちが大好きな回転すし、中でもサーモンは人気ランキングで常に上位にランクインするすしネタです。今回は子供

海 虫 日 裂 頭 条

お尻から白いひも

たちも大好きなサーモンに「お尻から白いひも」が張ったらちぎれてしまったら、女の子が紹介されてきました。紹介状には引きちぎられた白いひものようなものの分析結果も同封されており、その正体は日本海裂頭条虫(かいりゅうじょうちゅう)という寄生虫でした。

果も同封されており、その正体は日本海裂頭条虫(かいりゅうじょうちゅう)という寄生虫でした。日本海裂頭条虫は、第1中間宿主であるケンミジンコの中でプロセルコイドとして生息しており、それを第2中間宿主であるサケ属の魚(サケ

5〜10センチの幼虫が、約1カ月で成熟して卵を産み、成虫は5〜10センチにもなり、日本海裂頭条虫は、腸管以外の臓器へ侵入することはありません。症状は、腹部の不快感、下痢、食欲不振を自覚する程度で、排便時に虫

その形状が真田紐(まのたぬ)という日本古来の平たいひもに似ていることから、ザナダムシとも呼ばれます。昭和40年代以降、日本では低温流通ネットワー

保存されて流通した魚では感染の心配はありません。治療はプラジカンテルという駆虫薬を内服しますが、私たちの症例では、アミドトリゾ酸ナトリウム(商品名カストログラーフィン)という消化管造影剤を小腸に注入して、診断と治療を同時に行いました。造影剤が虫体のいる部分に到達すると、動いている姿が観察でき、やがて動かなくなると造影剤とともに排せつされました。長さは約2センチでした。

1中間宿主であるケンミジンコの中でプロセルコイドとして生息しており、それを第2中間宿主であるサケ属の魚(サケ

5〜10センチの幼虫が、約1カ月で成熟して卵を産み、成虫は5〜10センチにもなり、日本海裂頭条虫は、腸管以外の臓器へ侵入することはありません。症状は、腹部の不快感、下痢、食欲不振を自覚する程度で、排便時に虫

その形状が真田紐(まのたぬ)という日本古来の平たいひもに似ていることから、ザナダムシとも呼ばれます。昭和40年代以降、日本では低温流通ネットワー

保存されて流通した魚では感染の心配はありません。治療はプラジカンテルという駆虫薬を内服しますが、私たちの症例では、アミドトリゾ酸ナトリウム(商品名カストログラーフィン)という消化管造影剤を小腸に注入して、診断と治療を同時に行いました。造影剤が虫体のいる部分に到達すると、動いている姿が観察でき、やがて動かなくなると造影剤とともに排せつされました。長さは約2センチでした。

その形状が真田紐(まのたぬ)という日本古来の平たいひもに似ていることから、ザナダムシとも呼ばれます。昭和40年代以降、日本では低温流通ネットワー